



園だより かけはし

キッドワールドこども園

令和8年8月1日

梅雨も明け、本格的な夏がやってまいりました。

園内では、プール遊びや泥んこ遊び、色水遊び、染め紙遊びなど、夏ならではの遊びを楽しむ子どもたちの元気な笑い声が響いています。一人ひとりが夢中になって遊び、友だちと喜びを共有しながら、生き生きとした表情を見せてくれています。

8月も、子どもたちが「やってみたい!」と思えるような魅力ある遊びを計画しています。夏の遊びは、プール遊びだけではなく、園で育てたピーマンやミニトマト、きゅうりを収穫してクッキングを楽しんだり、絵の具を使った色水遊びを通して色の変化を発見したりと、さまざまな体験を取り入れていきます。

こうした日々の遊びや生活の中で、一つひとつの経験がつながり、子どもたち同士が気づいたことや感じたことを言葉や表情で伝え合いながら、豊かな学びへとつながるよう関わってまいります。暑い日が続きます。ご家庭でも十分な休息や水分補給を心がけ、元気に夏を過ごしていきましょう。

行事予定

日	曜日	園児に関すること
3	月	身体計測(3歳児・5歳児)
4	火	身体計測(2歳児・4歳児)
6	木	身体計測(1歳児 Aクラス)、3歳児クッキング
7	金	身体計測(1歳児 Bクラス)
17	月	弁当日
19	水	避難訓練(通報訓練)
20	木	健康診断、身体計測(0歳児)
26	水	誕生会
31	月	プール納め

お知らせ

- ※ 7月の保育料、給食費、延長料金等の支払い日は、8月10日(月)となります。
- ※ 8月の弁当日は、17日(月)です。子どもさんが楽しみにしています。忘れないようにお持ちください。

酷暑と子どもたちの健康について

近年は、気温が35℃を超える「猛暑日」が珍しくなくなり、「酷暑」といわれる日が増えています。子どもは大人に比べて体温調節機能が未熟で、身長が低いと地面からの照り返しの熱を受けやすく、短時間でも熱中症になる危険性があります。また、夢中になって遊ぶことで、のどの渇きや体調の変化に気付きにくいことも特徴です。

熱中症の危険性は、気温だけで決まるものではありません。湿度や日差し、地面からの照り返しなどを合わせた「暑さ指数(WBGT)」が重要な指標となっています。環境省では、WBGTが31以上の「危険」の場合は、運動を原則中止することを推奨しています。

当園でも、子どもたちの命と健康を最優先に考え、気温だけでなく暑さ指数(WBGT)や子どもたちの体調を確認しながら、戸外遊びやプール遊びの時間短縮・中止、室内活動への変更などを行っています。また、こまめな水分補給や休息、エアコンを適切に使用した保育環境づくりに努めています。

前回に引き続き、子育ての中で大切にしたいこととして、「子どもの名前をいっぱい呼んであげる」ということについてご紹介します。

私たちは毎日、何気なく子どもの名前を呼んでいます。しかし、この何気ない関わりは、子どもの心や脳の発達にとって、とても大きな意味を持っています。

名前は、子どもが生まれて初めて受け取る「一生の贈り物」です。保護者の方が愛情を込めて名前を呼ぶことで、子どもは「自分は大切な存在なんだ」「愛されているんだ」と感じます。この安心感は、自己肯定感や自尊心を育てる土台となり、失敗しても挑戦する力や、困難に直面したときに立ち直る力（レジリエンス）へとつながっていきます。また、「〇〇ちゃん、おはよう」「〇〇くん、一緒にやってみよう」と名前を添えて声を掛けることは、人とのコミュニケーションの基礎を育てます。名前を呼ばれて相手の顔を見て返事することは、相手との信頼関係を築く第一歩です。さらに、「〇〇ちゃんはどうしたい？」と問いかけられることで、自分の気持ちや考えを表現する経験を重ね、自主性や主体性も育まれていきます。

発達心理学では、乳幼児期に養われる「愛着（アタッチメント）」が、その後の人間関係や情緒の安定に大きく影響すると考えられています。子どもは、優しく名前を呼ばれながら温かな関わりを繰り返し経験することで、「困ったときには助けてもらえる」「自分は受け入れてもらえる」という安心感を心の中に育てていきます。

この安心感は、子どもが新しいことに挑戦する勇気や、友達との関わりを広げていく力にもつながります。近年の脳科学の研究でも、名前を呼ばれることは脳の発達により影響を与えることが明らかになっています。乳幼児期は脳の神経回路（シナプス）が急速に形成される大切な時期です。名前を呼ばれ、その後に優しい言葉や笑顔が続く経験を繰り返すことで、言葉を理解する力や注意力、記憶力などに関わる神経回路が育ちやすくなると考えられています。さらに、安心できる人から優しく名前を呼ばれると、「オキシトシン」と呼ばれるホルモンが分泌されやすくなります。オキシトシンは「愛情ホルモン」とも呼ばれ、不安や緊張を和らげ、心を安定させる働きがあります。安心した状態は、子どもの「やってみたい」という意欲や学びへの意欲を高めることにもつながるため、名前を呼びながら温かく関わることは、心だけでなく学びの土台づくりにも役立つと考えられています。

忙しい毎日の中では、つい「早くして」「急いで」と声を掛けることが増えてしまうこともあります。そんな時こそ、名前を添えて「〇〇ちゃん、おはよう」「〇〇くん、ありがとう」「頑張ったね」と伝えてみてください。名前を呼ばれるたびに、子どもは「自分を見てもらえている」「大切に思われている」と感じ、安心感や自己肯定感を積み重ねていきます。

名前を呼ぶことは、お金も特別な道具も必要ありません。しかし、子どもの心と脳を健やかに育てる、とても大きな力を持っているのです。今日もぜひ、お子さんの名前をたくさん呼び、笑顔と言葉で愛情を伝えてあげてください。その積み重ねが、子どもたちの未来を支える大切な力になっていくことでしょう。

エッセイについて

お子さんの名前には、「健やかに育ってほしい」「幸せになってほしい」という、ご家族の願いや愛情が込められていると思います。その大切な名前で呼ぶことは、お子さんの存在を認め、「あなたは大切な存在だよ」という気持ちを伝えることにつながります。

一方で、「お前」「あんた」「おい」などの呼び方は、親しみを込めていても、子どもはその言葉遣いを自然と覚え、友達にも使うようになることがあります。

お子さんに贈った大切な名前を、ぜひ毎日の生活の中でたくさん呼んであげてください。